



佐野病院の北病棟3階～5階は、入院が必要な患者さまを受け入れる入院病棟となっています。中でも、今回ご紹介する北3病棟は、主に緊急入院される集中的治療が必要な患者さまを受け入れるフロアとなっております。

緊急入院される患者さまが多いため、短期間で患者さまについて把握する必要があります。病状についての情報は当然ですが、普段の生活習慣、性格や価値観などの情報を共有し、患者さま一人ひとりに合った看護が求められます。また、急に環境



が変わるため、認知症が進んだり、パニックを起こす患者さまもいらっしゃいますので、瞬時の対応力や判断力を強いられる場面も多くあります。

このような北3病棟の医療スタッフは、迅速に行動できる明るい性格のスタッフが多いのが特徴です。しっかりとコミュニケーションを取りながら、チームワークを大切にしている医療を心がけています。高齢の患者さまが多いため、転倒などのアクシデントも多いことから、事故を未然に防ぐことができるようスタッフ間で話し合い、予防策を実行しています。例えば、転倒する可能性が高い患者さまにセンサーマットを利用したり、ベッドから転落してもケガのないよう、低いベッドを使用するなど、さまざまな工夫を凝らしています。

北3病棟の看護スタッフ共通の思いは、患者さまに安全と安心をご提供する、ということです。入院した患者さまが、いやな思いや辛い気持ちになることが、看護スタッフにとっては一番耐え難いことです。退院される時、すべての患者さまに「ここに入院して良かったわ」と言ってもらえるように、さまざまなことに気を配り、患者さまにとってできるだけ快適な入院環境を整えていきたいと考えています。

各交通機関のご紹介

- JR舞子駅・山陽電車 舞子公園駅から
53・54系統 学園都市駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分
- 神戸市営地下鉄 学園都市駅から
53・54系統 舞子駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分
- JR垂水駅・山陽電車 山陽垂水駅から
2系統清水が丘行 清水が丘停留所下車



理念 **医** 地域医療への貢献 患者さんの立場に立った医療
経 健全な経営 着実に前向きな病院の発展
倫 悔いなき職場 生活と人格の向上

- 方針
1. 私達は、患者さんの病を癒し、苦しみを和らげ、延命に努めることを誓います。
 2. 私達は、患者さんの人格・人権を尊重し、合意を旨とし、信頼に応えることを誓います。
 3. 私達は、法を遵守し、過誤を防ぎ、生涯、医の知識と技術の研鑽に励むことを誓います。
 4. 私達は、職員相互の職分を理解し、尊敬し、協力して患者さんの医療に当たることを誓います。



大腸がんを コントロールできる医療を

一言で大腸がんといっても、病状の進み具合(=ステージ)によって、症状はもちろん、治療法なども大きく異なります。

佐野病院では、病状に合わせた高度な医療をベースとするトータルコントロールによって、大腸がんの根絶を目指しています。内視鏡を使った最新の手術法を含め「大腸がんをコントロールする」という考え方について、佐野寧院長に聞きました。

■病状に合わせて異なる大腸がん治療

大腸がんの場合、①大腸の粘膜から腸の壁にどれだけ入り込んでいるか ②リンパ節への転移があるか ③他の臓器への転移があるか、の3つの観点から、がんの進み具合=ステージを判断し、それぞれの病状に合った治療を行います。

大腸がんのステージ分類

ステージ0	がんが大腸の粘膜の中にとどまっている
ステージ1	がんが大腸の壁の筋肉の層にとどまっている リンパ節への転移はない
ステージ2	がんが大腸の壁の筋肉の層の外にまで浸潤している リンパ節への転移はない
ステージ3	リンパ節への転移がある
ステージ4	血行性転移(肝臓や肺への転移)や腹膜播種がある

ステージ0～1では、主に内視鏡によってがんを切除する治療を行います。内視鏡による手術は年々高度化しており、次にご紹介する「ESD」などを用いると、従来内視鏡での治療が不可能であった広範囲のがんでも、切除が可能となってきています。

ステージ2～3に進むと手術治療が中心となりますが、当院では、腹腔鏡による「腹腔鏡下手術」を基本とし、患者さまに負担の少ない手術を行っています。また、再発予防のために、化学療法を組み合わせる可能性も出てきます。

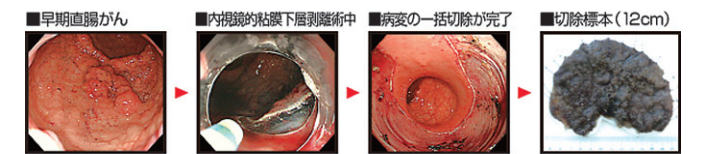
最終のステージ4では、化学療法と緩和ケアが中心となります。このように、大腸がんの治療といっても、病状によりさまざまな形があるわけです。

■内視鏡的大腸腫瘍粘膜下層剥離術(大腸ESD)とは

ESDとは、内視鏡に特殊なナイフを装着し、がん組織を粘膜下層から切除する最新の内視鏡治療です。私が国立がん研究センターに勤務していたときにチームで開発を進めていたもので、非常に高度な技術が要求されることから、健康保険の診療で認められている医療水準を超えた「先進医療」として、2009年7月に厚生労働省から認定された手技です。2010年5月、このESDを行うことを兵庫県で初めて正式に認可されたのが当院です。

従来のスネアと呼ばれる金属の輪を使って患部を切り取る方法(EMR)に比べて、ESDは、より大きな病変を切除することができ、切除できたかどうかの診断も正確になりました。さらに、今年の4月から、大腸ESDが保険診療として認可されることが決まり、今後ますます身近な手術方法になっていくことは間違いありません。

ただ、ESDは、内視鏡学会認定の専門医でなければ行ってはならないなど、厳しい条件がつけられた手技でもあります。今後、このような高度医療を提供するために、当院がますます力を発揮していかなければならないと考えています。



写真提供: 佐野病院 消化器センター

■大腸がんコントロールのプロフェッショナルとして

がんの状態が、ステージ0～4までのどの病期であっても、常にプロフェッショナルな治療を提供していくのが、当院の役割だと考えています。今後は、最新の高度医療を提供することはもちろん、受診を促したり、普段の生活段階から医療教育を行うなど、より幅広い場面で大腸がんに関わっていくべきだと思います。

ESDのような最新技術を積極的に取り入れ、それぞれの分野で技術を磨きながら、大腸がんをトータルコントロールできるプロ集団として地域医療に貢献したいと思います。

特集

患者側への負担が少ない 大腸内視鏡検査を体験!

大腸がんを予防するためには、症状が出る前に、きちんと検診を受けておくことが何よりも大切です。にもかかわらず、「痛い」「苦しい」といったイメージが付きまとい、なかなか検診に踏み切れない方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

そこで、情報誌の編集スタッフが実際に「大腸内視鏡検査」を受け、その体験をレポートしてみました。

【体験した人】
合同会社ビネクティア
前 弘亮 (情報誌制作スタッフ)

【検査の内容】
肛門から内視鏡を挿入して大腸の内腔を直接観察し、大腸の炎症性の病気(腸のただれや傷)、大腸ポリープ、その他を診断する検査です。佐野病院では、検査を受ける方の年齢や健康状態などを考慮し、できるだけ苦痛が少なく安全な方法を選択して検査を実施しています。

①受付で検査の手続き
朝9時に受付で検査の手続き。簡単な検査説明を受けます。



②診察→採血
健康状態に異常がないかどうかの診察を行い、採血をします。



③検査概要などのビデオ鑑賞
本日の検査概要、検診前の準備(排便などについて)に関する説明ビデオを見ます。



④下剤の服用、排便
約1時間かけてゆっくり下剤を服用。大腸内がからっぽになるまで、排便を繰り返します(5~8回程度)。その間に問診票の記入も行います。
★下剤…これが意外と飲みやすい!
★近くの看護師さんに分からないことを気軽に聞けるので安心
★排便には約4時間かかるので、本を読む、テレビを見るなどして、リラックスして過ごすことが大事!



⑤便の状態を確認
便が透明になってきたら、看護師さんに確認してもらいます。
★OKが出れば、トイレタイムからは開放となります。



⑥いよいよ検査
検査用の服に着替え、順番がくれば診察台へ。担当の先生から使用する器具、麻酔について、検査の内容などを説明していただき、点滴が始まります。
★数分経ち点滴に麻酔薬が入れると、数秒後には意識が無くなりました。



⑦検査後
麻酔が切れ、意識が回復。
★腸がはっている感じが痛みなどは全くなく、本当に検査したかどうか疑ってしまうほど、体に違和感がありません。

⑧検査後の説明と腸内写真の受け取り
検査の結果を先生から説明してもらいます。この時、自分の腸内の写真(別途費用が必要)も受け取ることができます。
★今回の検査で異常は認められず、とてもきれいな腸内だったということです。良かったです!



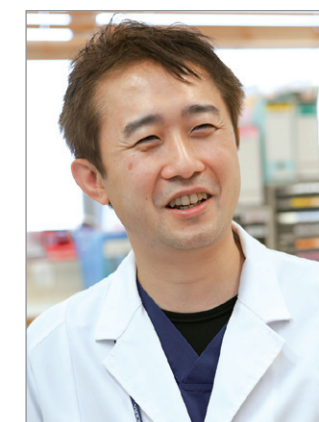
食道・胃・大腸内視鏡検査に関するお問い合わせは・・・TEL 078-785-1000 (代表)
食道・胃・大腸内視鏡検査を受けられたい方は・・・TEL 078-785-1006 (予約センター)

Information

Introduction

スタッフ紹介

がん治療をリードできる病院に



Profile

服部 三太 (ハットリ サンタ)

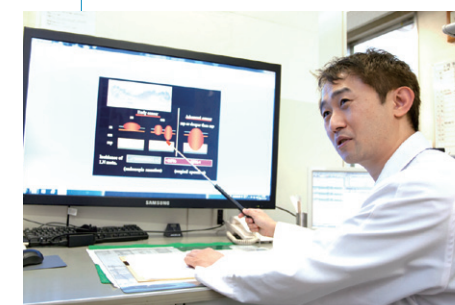
【専門分野】

- 消化管内視鏡診断・治療 (上部・下部)
 - 消化管腫瘍に対する化学療法
- 2010年 佐野病院入職

■共有の価値観を持てる職場

私は、2000年6月から5年間、千葉県の国立がんセンター東病院に勤務し、当時、佐野院長と一緒に仕事をさせていただきました。院長をはじめ当院の先生方は、同じ病院で働いた経験がある方や以前から交流のあった方が多く、同じ価値観を持っているため、非常に動きやすい環境です。

病棟の規模はそれほど大きくありませんし、設備的にも大学病院と同じというわけにはいきませんが、スタッフ全員が、常に「患者さまにとって最善の治療は何か?」という視点を持って医療に取り組んでいる点が、当院の最大の魅力だと思います。できるだけスピーディーに、



患者さまに適切な治療を提供できる環境が整っていますので、消化器を中心とした、がんに特化した専門病院としては、理想的な環境ではないでしょうか。

■正解のないがんの治療法

がんという病気は、治療の技術もさることながら、症状や治療に対する考え方が非常に難しい面があると思います。治療方法が1つしかないことは少なく、複数の選択肢がある場合がほとんどです。正直、治療法に絶対的な正解はありませんので、選択に迷うこともあります。ただ、私たち医師には、情報と経験、そして知恵があります。それらをできる限り患者さまに提供し、一緒に最善の治療法を見つけていくよう、心掛けています。

私が選択に迷った時、常に基準としているのは、患者さまが自分や家族だったらどうだろう、という視点です。病名を知ってとまどう方も多いため、できる限り患者さまの気持ちに寄り添い、結論を出していきたいと考えています。

また、内視鏡を扱う医者の立場としては、検査に対する皆さんの意識を高め、楽に検査を受けていただける環境を整えることで、そもそも「がんにさせない」ための取り組みを積極的に進めていきたいですね。

■情報発信できる病院に

患者さまの数も年々増えており、地域のがん専門病院として、当院の認知度も上がってきていますが、まだまだ存在を知らない患者さまもいらっしゃいます。できるだけ多くの方に当院の存在意義を知っていただき、必要とされる病院となるよう、頑張っていきたいと思っています。

そのために、日々の勉強もしっかり行い、新しい知識を身につけ、大病院からではなく、当院からがんの最新治療法を発信していけるような環境を作ることが、今の目標です。

気になる話題 PICK UP!

健康のためのミニ知識「栄養補助食品」について

患者さまにとって、「栄養をつける」ということは、非常に重要です。栄養は、食事で摂取することが基本ですが、中には病状や年齢などの問題から、食事を摂りにくい方がいらっしゃいます。そのような患者さまのために、佐野病院では、さまざまな栄養補助食品を活用し、患者さまの健康状態をサポートしています。

【栄養補助食品が必要な患者さまとは?】

- 食事の絶対量が足りない患者さま
 - カロリーや一定の栄養素(たんぱく質や亜鉛など)を増やしたい患者さま など
- いずれも、担当の医師が病状に照らし合わせて、栄養補助食品の使用を決めています。

【どんな種類があるの?】

ドリンクタイプ、アイスタイプ、ゼリータイプなどがあります。そ

れぞれのタイプごとに味も複数用意しています。さっぱりしたもの、甘いもの、塩っぱいものなど、できるだけ飽きがこず、患者さまの好みで選んでいただけるようにしています。自分で選ぶことで、食べる意欲にもつながっていくと思います。

【栄養補助食品を選ぶポイントは?】

まず、私たち栄養士が味見をして、おいしいものをピックアップします。それから、ドクター、看護師さんなど多職種の方にも味見をしていただき、最終的においしいという意見が多いものに決定します。食事の基本はおいしく食べることです。たとえ栄養補助食品であっても、その楽しみをできるだけご提供したいと考えています。

